

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-① 地域活性化イベント支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(8)-(イ)		
担当部署名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興	
Ⅲ-1-(1)							
事業内容	商店街活性化のため、通りにおいてイベントを実施して誘客することにより、商業・観光活性化につなげていく。またイベント実施後は講師等を招聘し事業検証を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	2,700	2,700	540	1,000	1,000
		(b) 予算現額	2,700	2,700	540	1,000	1,000
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
		A. 計 (b+d)	2,700	2,700	540	1,000	1,000
	B. 執行済額		2,700	2,700	540	322	876
	うち交付金充当額		2,160	2,160	432	257	700
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	100.0%	100%	32%	88%
予算の状況の説明		今年度は活動目標のとおり3回開催することができた。3回目の実施規模をこれまでより大きくすることで、これまでより予算を効果的に活用できたことから、昨年と比較して高い執行率となった。不用額については当初はイベント1回あたりの予算規模を大きくして、内容の充実を図る予定であったが、1、2回目のイベントについてはそれができなかったため生じたものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	ちゃんぶる～市を年3回開催	目 標	(6回開催)	(6回開催)	(6回開催)	(3回開催)	
		実 績	5回開催	4回開催	3回開催	3回開催	
	軽便市を年3回開催	目 標	(6回開催)	(6回開催)	(6回開催)	(3回開催)	
		実 績	5回開催	4回開催	3回開催	3回開催	
達成状況説明	イベントの開催については目標通りの3回開催することができた。実施体制についても前年と変わらず商工会の経営指導員がイベント開催に必要な書類作成や申請等の事務手続きを行った。1、2回目は従来どおり商店街周辺で実施したが、狭い場所であるため、参加店舗数を増やせないなどの問題があった。そこで、3回目は大きな場所に会場を移し、参加店舗数の増加やフリーマーケット事業者との連携、また舞台スペースを使って、様々なプログラムを実施することで大きな成果を挙げることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	集客数2,500人	目 標	(集客1,900人)	(集客6,000人)	(集客5,000人)	(集客2,500人)	(-)
		実 績		集客4,700人	集客3,400人	集客5,730人	
	進捗状況説明	1回目、2回目は以前と同様の内容で実施したため集客数は合計730人(1回目600人、2回目130人)であったが、3回目は5,000人集客でき、目標を達成することができた。目標達成できた要因として、3回目は広い公園に会場を移し、人気のあるフリーマーケット等と連携するなど、新たな取り組みを実施したことが成果につながったと考えられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	多くの集客を図るためには、天候の安定した時期と気温が比較的過ごしやすい時期を選定する必要がある。 また、事業を効果をあげるため、開催回数を集約する等検討する。	イベントの周知についてもこれまでは広報誌へのチラシの折込だけにとどまっていたが、3回目の実施についてはラジオCMや近隣市町村への新聞折り込みの実施や無料のサイトへの掲載を行った。 当日は来場者にアンケートを実施し、今回のイベント情報を何処から入手したか確認しており、次年度については予算配分を含めたより効果的な広報ができると考えている。
今後の取り組み方針 この「地域活性化イベント支援事業」につきましては、商店街の活性化というメインのテーマがあるため、縛られる部分もあったと思われる。この事業については今回で終了するが、これまでこの事業で得られたデータを活用し、次年度以降は「与那原町魅力発信事業」に組み入れて幅広く活性化につながる事業を実施することとする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>1,659</td><td>876</td><td>700</td><td>176</td><td>783</td></tr> </table> 与那原町 1,659千円 補助金 876千円 与那原町商工会 876千円 イベント実施に係る事業費 ほか与那原町商工会負担分 (交付対象外経費) 783千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	1,659	876	700	176	783
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
1,659	876	700	176	783										
資金使途の流れ、検・評価目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定についてはイベント実施している商工会に対してのものであるため、妥当であると考え。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についてはやや少額であると思われるが、実施回数からすると概ね妥当である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者負担についても補助金対象外経費について自己負担しており、負担関係は妥当である。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○使途についても、検査の結果事業目的に沿ったものに使用されており、妥当である。											

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②	商工会青年部南北交流支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(イ)	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	市場特性に対応した誘客活動の展開 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	若年者交流を通して、沖縄のPRを図るとともに、将来のリピーターを生み出すことで、誘客と観光振興につなげることを目的として、本町商工会青年部と北海道浜中町商工会青年部が共同して行う「南北少年少女体験交流」へ支援を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	2,000	2,000	2,500	2,500
		(b)予算現額	2,000	2,000	2,000	2,500	2,500
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	2,000	2,000	2,000	2,500	2,500
	B.執行済額		2,000	2,000	2,000	2,500	2,500
	うち交付金充当額		1,600	1,600	1,600	2,000	2,000
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		当初の計画通り北海道浜中町との交流事業を実施でき100%の執行率となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	交流派遣者数24人	目標	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	(交流派遣者数24人)	
		実績	交流派遣者数26人	交流派遣者数23人	交流派遣者数24人	交流派遣者数24人	
	浜中町交流団25名受入	目標	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	(浜中町交流団25名受入)	
		実績	浜中町交流団34名受入	浜中町交流団26名受入	浜中町交流団13名受入	浜中町交流団11名受入	
達成状況説明	事業プログラムとして派遣した小学生が地元の小学校で与那原の歴史・文化を紹介する機会を設けており、本町の魅力を伝える場となっている。今年度は青年部が与那原PRポスター(4種類)を作成し、浜中町内にて配布を行った。しかし本町の歴史文化については例年大綱曳や史跡等同じ内容になっており、新たな情報発信ができていないことが交流団受入未達成の要因であると思われる。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	交流事業以外で、浜中町から本町を訪れる観光客30以上	目標	()	(30名)	(30名)	(30名)	()
		実績		26名	23名	8名	
	進捗状況説明	浜中町からの観光客の受け入れについては本町商工会員及び浜中町商工会への確認で計測しているが、目標達成できなかったのは、交流による新たな情報発信が十分でなかったことが要因であると思われる。 平成29年2月に派遣交流(24名派遣)を実施し、商工会青年部は地元青年部と浜中町の主要産業の視察研修や、浜中町各地で本町ガイドブックの配布と町のキャラクターである「ヨナバルファイターズリー」の格好でPRやポスター掲示によるPRを行った。児童についても浜中町内の小学校の体育館に児童・教員を招いて与那原大綱曳や特産品のヒジキなどの特産品を紹介・発表する時間をいただき、ともに与那原町の産業・歴史・文化を発信することができた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	児童が実施している交流については、浜中町への情報提供という点で一定の成果を挙げていると思われるが、青年部間の交流については「物流及び相互間での商取引、加工施設、観光施設等の先進事例の視察研修を行うなど産業振興に寄与することを目的に実施する」という事業目的について本町への来町の動機となるほどの効果は得られていないと思われ、その結果商工会関係者の受け入れについて目標達成できていない一因ではないかと推察される。動向する青年部員の選定についても事業間交流が可能な職種の部員が動向するなど、成果をあげるための施策を今後青年部と協議していく必要がある。	浜中町の実施しているモンキーパンチミュージアムのブランディングによる地域活性化策について、本町ではまだうまく活用できておらず、今後平行して実施している商工会事業の「地域活性化イベント支援事業」「地域特産品・販路開拓支援事業」に活用できるよう連携を図っていく必要がある。 また浜中町では牛乳が特産であり、実際に有名アイスクリームメーカーの原材料となっていること高品質なものであるため、これらを本町で流通できるような体制(活用する側の調整を含める)の構築を目指す。
今後の取り組み方針		
現在はちゃんぶる～市で北海道の海産物のみを販売しているが、本事業により浜中町の特産品について豊富な情報があるため、この情報を活かして幅広い特産品を紹介・提供し、浜中町の物産が手に入るという体制を整えることで、他との差別化を図り集客の手段としたい。そのためにはこれまで以上に浜中町との連携を密にし、相互の商取引や加工施設を活用した商品の開発についてこれまで以上に力をいれて取り組むよう協議していき、成果目標を具体的に設定していく必要がある。それによって得られた成果については商工会会員店舗や今後実施予定の与那原マルシェでの販売を視野に入れることとする。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		3,892	2,500	1,392
			交付金充当額	市町村負担金
			2,000	500
与那原町 2,500千円 補助金 2,500千円 与那原町商工会 2,500千円 ・旅費 ・使用料及び賃借料 ほか与那原町商工会負担分 (交付対象外経費) 1,392千円				
資金の流 れ、使 途、費 目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○支出先としてはこれまでの事業実績をみても妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については、予算の大半を占める旅費等についても一般的な額であり、適正な規模である。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○参加者も旅費等について自己負担しており、受益者との負担関係は妥当である。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目・使途についても適切に運用されている。

市町村名	与那原町							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-③ 地域特産品開発・販路開拓支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)			
担当部署名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成26～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興			
					Ⅲ-1-(1)			
事業内容	本町の周遊・滞在型観光を促進するため、地域資源を活用した特産品の開発と販売促進、販路開拓を図る活動支援を行う。							
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
		(b) 予算現額	1,665	1,530	1,350			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0			
		(d) 繰越額	0	0	0			
		A. 計 (b+d)	1,665	1,530	1,350			
	B. 執行済額		270	260	506			
		うち交付金充当額	216	207	404			
		次年度繰越額	0	0	0			
		執行率 (%) (B/A)	16.2%	17.0%	37.5%			
	予算の状況の説明		今年度は賞味期限を設定するための成分分析やありんくりん市への出店等を実施したが、講師謝金や広報費等が当初の予定通り実施したものの、想定よりかからなかったため、不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
	特産品の販路開拓	目 標	(試作品開発支援2品)	(試作品開発支援2品)	(特産品の販路開拓)	()		
		実 績	試作品開発支援5品	試作品開発支援1品	4店舗販売について調整			
	【参考指標】 一般向け試食会の開催 4回	目 標	(—)	(一般向け試食会開催4回)	(—)	()		
		実 績	—	一般向け試食会開催1回	—			
	【参考指標】 専門家向け試食会の開催 2回	目 標	(—)	(専門家向け試食会開催2回)	(—)	()		
		実 績	—	専門家向け試食会開催1回	—			
	達成状況説明	販路開拓については、当初商工会の女性会員で組織する女性部で生産して販売する予定であったが、材料であるひじきの収穫量が過去にないほど落ち込んでおり、特産品に使用するひじきが確保できなかったため、販路開拓がうまく進まなかった。今後は女性部所属の3店舗や南城市の道の駅での計4店舗で販路について調整予定である。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
		町内の10店舗で特産品の販売	目 標	(—)	(—)	(—)	(販売実施)	(—)
実 績				—	—	販売未実施		
【参考指標】 新商品の開発 2品		目 標	(—)	(2品)	(2品)	(—)	(—)	
		実 績		5品	新商品開発なし	—		
【参考指標】 ブラッシュアップした既存商品の売上を30%アップ		目 標	(—)	(—)	(売上30%アップ)	(—)	(—)	
		実 績		—	ブラッシュアップ未実施	—		
進捗状況説明	当初予定ではありんくりん市での試作販売後に販路の調整を行う予定であったが、ひじきの不漁により材料の確保ができず、特産品の生産ができなかったため、販売の調整については女性部の3店舗と南城市の道の駅の4店舗にとどまった。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	特産品の生産については女性部の一部のメンバーで実施しているため、生産数に限りがあり、販売する個数等を含めて限定されてくる。	容器やパッケージについては女性部全体で協力していいものができあがっているの、今後は生産性を向上させ、安定した販売ができる体制の構築を目指す。
今後の取り組み方針 今後については女性部で委員会を設置して、特産品の更なる改良を行っていく予定である。また生産についても女性部以外の生産設備をもった商工会員と連携して生産性を向上させることも検討していく予定である。(予算については女性部の費用で実施) また、材料の確保については漁協と調整して必要量を確保できるようにしていく必要がある。また町のふるさと納税の返戻品としての活用も検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>562</td><td>506</td><td>404</td><td>101</td><td>56</td></tr> </tbody> </table> 与那原町 562千円 補助金 506千円 与那原町商工会 506千円 ・委員/専門家謝金 ・委員/専門家旅費 ・会議費 ・事務費 ほか与那原町商工会負担分 (交付対象外経費) 56千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	562	506	404	101	56
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
562	506	404	101	56										
資金使途の流れ、検証・評価目・	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定として、商工会は以前にも商品開発に携わった経験もあり、適切であると考える。 ○予算規模については当初招聘予定であった専門家(県外)との折り合いがつかず、予算の執行率が低いものとなった。 ○受益者との負担関係についても商工会で自己負担もしているため妥当である ○費目・使途についても必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-④ 観光地美化・緑化きれいなまちづくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-(ウ)		
担当部課名	まちづくり課	事業実施(予定)年度	平成24~29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備		
事業内容	Ⅲ-1-(1)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	22,000	20,920	22,765	21,482	11,907
		(b) 予算現額	21,272	20,920	21,233	21,482	11,007
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 728	0	▲ 1,532	0	▲ 900
		(d) 繰越額	0	0	0	0	—
		A. 計 (b+d)	21,272	20,920	21,233	21,482	11,007
	B. 執行済額		21,272	20,549	20,651	19,788	10,703
	うち交付金充当額		17,018	16,439	16,521	15,830	8,562
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	98.2%	97.3%	92.1%	97.2%
予算の状況の説明		不要額の900千円は、雨天等により賃金職員の出勤日数が減少したことによるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				25年度	26年度	27年度	28年度
	散策コース(10km)環境美化作業員配置5名	目 標	—	—	—	(5名)	
		実 績	—	—	—	5名	
	上の森公園への花木の植栽工事の実施1箇所(散歩コースへ花や樹木の植栽)	目 標	—	—	—	(1箇所)	
		実 績	—	—	—	1箇所	
	【参考】散策コースの環境美化	目 標	(美化清掃実施)	(美化清掃実施)	(美化清掃実施)	—	
		実 績	美化清掃実施	美化清掃実施	美化清掃実施	—	
	【参考】散策コースへ花々、樹木の植栽1.0km	目 標	(緑化工事2.0km)	(緑化工事0.6km)	(緑化工事1.0km)	—	
		実 績	緑化工事0.9km実施	緑化工事0.6km実施	緑化工事1.0km実施	—	
達成状況説明	散策コースを区域に分けて順序よく定期的に美化清掃を繰り返すことで、環境の美化を維持している。今年度は散策ルートに接する上の森公園にて、テリハボク2本、サガリバナ2本、ガジュマル1本、ホウオウボク2本の植栽を行い来訪者が気持ちよく回遊できる環境を整えることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
	観光客が安心安全に、沖縄らしい風景を楽しみながら回遊できる環境の整備	目 標	(—)	(100%)	(100%)	(—)	(—)
		実 績		80%	100%	—	
	植栽工事進捗率 88%(全体計画 8箇所、うち完了7箇所)	目 標	(—)	(71%)	(88%)	(—)	()
		実 績		85%	100%	—	
	進捗状況説明	散策コースを繰り返し美化清掃を行うことで、年間を通して、安定的にきれいな環境を提供できている。ただ、夏場は草の成長が早く整備がおいついていない状況。効率よくこなせるように工夫していく。上の森公園の植栽については、今年度で完了し緑化を推進することができた。平成29年度は東浜地区周辺を緑化することで、観光地としての環境整備を進めていく。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	散策コースを定期的に美化清掃する事で、以前に比べ来訪者が容易に観光地を巡ることが可能となり、少しずつ観光地としての周知へとつながっている。観光地としてのアピールに欠けているマイナーな現状を打開するには、現在の活動を維持し、更なる美化、緑化を推進していく事が観光地としての地位を確立していくための重要なカギとなる。美化・緑化を推進していく中で、これまでは植栽に重点をおいてきたが、今後、長期にわたり美しく緑豊かな環境を保っていくには、植栽後の維持、管理が課題となる。	美化・緑化を推進していく上で、今後の課題となるのは、植栽を終えた花木の維持・管理で、板良敷沿岸線の木々については、日々の海風や台風等の塩害による枯れを防ぐため、定期的な木肌の洗浄を行い、夏場の乾燥した時期には定期的な灌水を行う。又、成長不良な花木については施肥を行う。
今後の取り組み方針		
引続き今後も、植栽工事実施済みの花々や樹木の成長へと力を入れ維持・管理を行っていく。また、草刈作業については平成29年度より、3名増員した8名の作業員を配置し散策コースの美化に努めていく。平成29年度は剪定機の購入により作業の効率化を図り、散策コースを細部まで行き届いた管理を行い更なる美化緑化を推進していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>10,703</td><td>10,703</td><td>8,562</td><td>2,141</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,703	10,703	8,562	2,141	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,703	10,703	8,562	2,141	0										
与那原町 10,703千円 共済費 1,223千円 作業員5人×12ヶ月 1,223千円 社会保険料等 賃金 7,657千円 作業員5人×12ヶ月 7,657千円 草刈・清掃作業員5名分賃金 需用費 778千円 事務消耗品 582千円 草花苗・培養土・チップソー等ほか51件 修繕費 196千円 草刈機・トリマー・ブローワー等の修理10件 工事費 950千円 (有)西原農園 950千円 平成28年度与那原町散策ルート植栽工事 備品購入費 95千円 (株)ヨシダ機器サービス 95千円 草刈機2台購入														
資金の流 使途の 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負事業者は企業組織、実績、知識等を勘案した上で3社見積もり比較により選定して随意契約し、妥当であると考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なもののなか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	与那原町魅力発信事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-(イ)	
担当部課名	観光商工課	事業実施(予定)年度	平成26~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興 Ⅲ-1-(1)	
事業内容	与那原町の魅力を県内外に発信するため、また観光客の誘致を図る為、各種事業により整備した新たな観光資源等を活用し、各種イベントを実施する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	12,648	6,060	22,540		
		(b) 予算現額	12,648	7,060	17,840		
		(c) 増減額 (b-a)	0	1,000	▲ 4,700		
		(d) 繰越額	0	0	0		
		A. 計 (b+d)	12,648	7,060	17,840		
	B. 執行済額		12,420	6,932	16,923		
	うち交付金充当額		9,936	5,545	13,538		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (%) (B/A)		98.2%	98.2%	94.9%		
予算の状況の説明		当初予算額からの減額については各種バスツアーについて、先行して実施した大綱曳バスツアーの実績に準じて減額したことに加えて、大綱曳映像記録制作について当初予算額より低額で実施できたため、それに伴い減額した。その差額については「大綱曳倉庫・作業場整備事業」へ流用した。 各種委託事業において入札等による残があるものの、概ね適正に執行できたと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	与那原大綱曳PR事業実施	目標	(3回)	()	()	()	
		実績	3回				
	その他与那原町PR事業実施	目標	(4回)	()	()	()	
		実績	7回				
	(参考) 復元した軽便与那原駅舎をPRするイベントの開催	目標	(記念事業の実施)	(1回)	(-)	()	
		実績	記念事業実施済	3回	-		
	(参考) 来訪者と町民の交流施設をPRするイベントの開催	目標	(-)	(1回)	(-)	()	
		実績	-	2回	-		
(参考) ヨナバルマジク(町魚)PR看板の設置	目標	(-)	(1基)	(-)	()		
	実績	-	1基	-			
達成状況説明	与那原大綱曳PR事業として①大綱曳記録映像撮影②与那原大綱曳バスツアー③大綱曳PRCM放送の3事業を実施した。これまでは大綱曳のPRについてはポスターのみであったが、メディア等を活用することにより幅広い層にPRすることができ、集客数にも表れている。 またその他のPR事業として与那原町立軽便与那原駅舎展示資料館をPRするためのイベントとして①軽便JAZZのタベ②えきマルシェの2回実施。社交街をPRするイベントとして夜の魅力バスツアーを3回、町まちあるきガイドを活用した与那原体験バスツアーを1回、さらに商工会の「よなばるマルシェ」と連携した「よなばるフェスタ」を開催し、イベント規模の違いはあるものの、多くの来場者にお越しいただくことにより、駅舎・社交街等をPRすることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	与那原大綱曳への誘客200人誘客	目標	(-)	(950名)	(150名)	(200名)	(-)
		実績		13,468名	349名	1,000名	
	その他事業で400人誘客	目標	(-)	(-)	(600名)	(400名)	(-)
		実績		-	1,359名	6,000名	
	(参考) 軽便与那原駅舎をPRするイベント150名参加	目標	(-)	(950名)	(150名)	(-)	(-)
		実績		13,468名	349名	-	
	(参考) 来訪者と町民の交流施設をPRするイベント600名参加	目標	(-)	(-)	(600名)	(-)	(-)
		実績		-	1,359名	-	
	(参考) ヨナバルマジク(町魚)PR看板の設置(1基)	目標	(-)	(-)	(1基)	(-)	(-)
実績			-	1基	-		
進捗状況説明	与那原大綱曳への誘客については初の実施となるメディアを活用してのPRを行うことにより、当初の目標を達成できた。今後は関連する事業を絡めてより効果的なPRを行っていくこととする。 その他事業での誘客についても当初目標を達成することができた。これまでPRできていなかった社交街を町内外にPRすることにより、イベント実施時以外の時でも賑わいのある観光資源として定着させていきたい。駅舎についても今後も継続してイベント等の実施を行うことにより、人々の憩いの場としての定着を図っていく。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	今回実施した事業に加えて別事業で整備した観光ポータルサイトとの連携やCMを視聴した方が来場したくなるような仕組み作りを含めた新たな取組みを考慮していく必要がある。 その他のイベントでは番組収録とJAZZイベントを連携して実施したように、単発で実施するだけでなく、本事業以外のイベント等連携できる事業を考慮して日程を組む必要がある。	大綱曳のPRについては、様々な取組みにより集客効果を上げたが、個々の事業の効果については検証できていないため、来場者へのアンケート等を実施することにより検証する必要があると考える。また今回実施した事業に加えて別事業で整備したポータルサイトとの連携や、新たな取組み等を考慮してPRを継続していく必要がある。 軽便駅舎でのイベントについては、広場を活用してのイベントについては天候に大きく左右されるため、天候に左右されないイベントの考案と指定管理者と連携して継続的に取り組むことにより「憩いの場」として定着を図っていく必要がある。 バスツアーについては参加者のリピート率等の検証ができていなかったため、次年度実施する際はそれも考慮したプログラムにしていける必要がある。
今後の取り組み方針		
大綱曳のPRについては来場者へのアンケートにより、効果があるものを精査し、予算配分を検討していく。また大綱曳を来場者のみではなく、IT技術を活用してより幅広い方々にご覧いただけるような方策を検討する。 駅舎イベントについては、隣接する社交街を活用できるよう社交飲食業組合と引き続き連携しながら実施していく。加えて夜のバスツアーについては社交飲食業組合への補助金という形にして様々なPR事業に活用できるようにし、観光資源となるよう取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)						
		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
		16,923	16,923	13,538	3,385	0
与那原町 16,923千円	賃金・共済費 2,169千円	臨時職員2名分	〔魅力発信事業全般を担当〕			
	報償費 485千円	各種イベント出演者等	〔軽便JAZZイベント、夜の魅力バスツアーガイド〕			
	需用費 545千円	事務消耗品160千円	〔イベント周知用横断幕等の作成費〕			
		印刷製本品385千円 ・YKC印刷事業部178千円 ・カデナデザインヴィレッジ108千円 ・Be夢広宣伝99千円	〔イベント周知用ポスターチラシ 駅舎パンフレット・入場券印刷費〕			
	役務費 3,711千円	TV民放3局、ラジオ民放3局 2,415千円	〔与那原大綱曳まつりPRCM放送料〕			
		沖縄テレビ(株) 1,296千円	〔オキナワモンドウォーカー放送料〕			
	委託費 5,416千円	(株)近畿日本ツーリスト沖縄 992千円	〔夜のまちあるき魅カツアー委託費〕			
		沖縄ツーリスト(株) 600千円	〔与那原大綱曳バスツアー委託費 与那原体験バスツアー委託費〕			
		(株)ステップ 1,168千円	〔軽便JAZZ・えきマルシェ・スプリングフェスタ 業務委託〕			
		(株)MRUKIN 267千円	〔大綱曳関連行事撮影業務〕			
クラウドシティ 54千円		〔えきマルシェチラシデザイン業務委託〕				
(株)NTTドコモ沖縄1,566千円		〔モバイルを活用した交流人口調査業務委託〕				
高里エンジニアリング 162千円		〔駅舎イベント仮設電気配線委託業務〕				
(株)シネマ沖縄 499千円		〔大綱曳PRCM制作委託業務〕				
沖縄テレビ放送 (株) 108千円		〔軽便駅舎PRCM制作委託業務〕				
使用料及び賃借料 97千円	(株) ステップ 97千円	〔地元CM音源録音委託業務〕				
負担金及び補助金 4,500千円	与那原大綱曳まつり運営委員会 4,500千円	〔大綱曳打上げ花火委託料〕				

資金 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、本町の契約、会計規則に基づき、見積りによる競争やプロポーザル等にて選定しており適正である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○複数見積等により予算を確定しており予算規模は妥当と考える。
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○補助金については受益者も相応の負担をしており、負担関係は妥当であると考えられる。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目、使途については実施段階で十分な検討を重ねており、目的に即した真に必要なものとなっている。

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-①	学校ICT環境整備等による学習意欲学力向上推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア	
担当部課名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)	
事業内容	児童生徒の学力向上及び人材育成の為、電子黒板等を整備し、情報教育支援員を各小学校へ配置する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	0	7,195	4,123	55,913	49,611
		(b) 予算現額	0	6,810	4,123	51,808	63,133
		(c) 増減額(b-a)	0	▲ 385	0	▲ 4,105	13,522
		(d) 繰越額	9,173	0	0	0	0
		A. 計(b+d)	9,173	6,810	4,123	51,808	63,133
	B. 執行済額		8,228	6,806	4,078	48,354	62,183
	うち交付金充当額		6,582	5,444	3,263	38,683	49,746
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		89.7%	99.9%	98.9%	93.3%	98.5%
予算の状況の説明		当初計画(小学3年生以上の普通教室及び理科室等特別教室を対象に電子黒板一式を整備)の他に、小学1,2年生の普通教室への整備を追加したため、大幅の予算増となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				25年度	26年度	27年度	28年度
	電子黒板一式	目 標	(—)	(—)	(21台 中学校に フィルム整備)	(2小学校)	
		実 績	—	—	31台 中学校に フィルム整備	2小学校	
	情報教育支援員の配置	目 標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実 績	2人	2人	2人	2人	
	個に応じた情報教育の充実	目 標	(—)	(—)	(10講座 受講生80名)	(10講座 受講生80名)	
		実 績	—	—	10講座 受講生64名(32名)	10講座 受講生58名	
	達成状況説明	計画通り、2小学校の全ての教室に電子黒板の設置を行った。 情報教育支援員を2名雇用し、2小学校に1名ずつ配置して計画的に活用した。 夏休み期間中に行われた講座においては、周知期間の不足、周知方法の工夫不足(町の広報誌・児童へのチラシ配布のみ)等により、目標80名に対し58名の受講者となった。					
	成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度
全国学力調査平均正答率の全国との差		目 標	(—)	(—)	(小学校+0.4 中学校-6.0)	(小学校-1.0 中学校-3.0)	(全国学力調査 での全国との 学力差縮小)
		実 績		—	小学校+0.62 中学校-1.82	小学校+3.3 中学校-5.325	
児童生徒の発達段階に応じた、パソコンの基本操作習得の到達率		目 標	(—)	(65%)	(60%)	(70%)	(90%以上)
		実 績		76%	77%	76%	
進捗状況説明		全国学力・学習状況調査での全国平均との差は、小学校においては全国平均正答率を超えており、ICT機器を活用した授業改善が行われたことで、児童の授業内容理解が図られている。中学校においては目標達成とならず、今後もICT機器を有効に活用した授業改善に取り組み、学力向上に努める。 情報教育支援員を小学校の2校に1名ずつ配置したことによって、PC教室での授業を行う担任の支援や児童を直接支援することで、担任や児童のコンピュータリテラシーの向上が図られたことがアンケートの結果から分かる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	小学校・中学校の全ての教室に電子黒板を設置したことにより、ICT機器を活用した授業が積極的に行える環境となった。今後は、学習支援ソフトも含めて、ICT機器の効果的な活用方法等の研修を深める必要がある。 情報教育支援員の配置により、小学校のコンピュータリテラシーについては、高学年でWebサイトを活用しての情報収集力やプレゼンテーションの活用などに向上が見られる。さらに、低学年においてもコンピュータに親しむ機会を増やすことと、中学年でローマ字入力技術向上に向けた取り組みが必要である。	情報教育支援員による教職員への「ICT活用研修」を計画的に行い、教職員全体のICT活用力と指導力を高める必要がある。 コンピュータリテラシーの面については、小学校全学年で着実な向上が見られるため、中学年のローマ字入力の技術も向上できると考えられる。さらに、IT犯罪の未然防止や情報モラル教育の徹底も図る必要がある。
今後の取り組み方針		
ICT機器の充実により、ハード面の環境は整いつつあるので、機器の効果的な活用方法等の研修(校外の講師や情報教育支援員による研修)を深め、教職員の指導力向上に努める。 情報教育支援員の活用として、放課後や長期休業中の時間に低・中学年児童への直接的指導を行う計画を立てて実践する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>62,183</td><td>62,183</td><td>49,746</td><td>12,437</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	62,183	62,183	49,746	12,437	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
62,183	62,183	49,746	12,437	0										
与那原町 62,183千円 報酬費 3,606千円 〔 情報教育支援員2人の報酬 〕 共済費 538千円 〔 情報教育支援員2人の社会保険料 〕 備品購入費 58,039千円 ケーティワイ企画 41,537千円 〔 小学校電子黒板一式備品購入 〕 アサト電気 16,502千円 〔 小学校電子黒板一式備品購入(追加分) 〕														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○予算規模は「与那原町教育委員会嘱託員設置規程」により見合った適正な規模となっている。 ○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名		2-② きめ細かな児童生徒支援事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-ア		
担当部課名		学校教育課		事業実施(予定)年度		平成24~33年度		
				沖縄振興基本方針該当箇所		確かな学力を身につける教育の推進		
						Ⅲ-3-(1)		
事業内容		特別な支援を要する児童生徒に対し、適切な支援を行う為の特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーを配置する。 学習の遅れ気味な児童生徒に対し、個に応じたきめ細かな支援を行う為の学習支援員・特別支援教育支援員を配置する。 放課後の児童の学びをサポートする為、放課後学習支援員を配置する。						
実施方法		■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		予算の状況	(a) 当初予算額	14,702	57,400	63,194	77,688	91,130
			(b) 予算現額	5,291	55,636	59,513	77,688	71,110
			(c) 増減額 (b-a)	▲ 9,411	▲ 1,764	▲ 3,681	0	▲ 20,020
			(d) 繰越額	0	0	0	0	0
			A. 計 (b+d)	5,291	55,636	59,513	77,688	71,110
		B. 執行済額		4,702	52,402	59,185	74,909	66,930
		うち交付金充当額		3,762	41,921	47,348	59,927	53,544
		次年度繰越額		0	0	0	0	0
		執行率 (%) (B/A)		88.9%	94.2%	99.4%	96.4%	94.1%
予算の状況の説明		当初予定していた学習支援員の配置に欠員がためため予算減となった。不用額は、人件費での出勤実績の差額等が生じた分である。						
活動目標(指標)及び達成状況				達成状況				
				25年度	26年度	27年度	28年度	
		特別支援教育コーディネーターの配置	目 標	(—)	(—)	(1人)	(1人)	
			実 績	—	—	1人	1人	
		スクールカウンセラーの配置	目 標	(2人)	(1人)	(1人)	(1人)	
			実 績	2人	1人	1人	1人	
		学習支援員の配置	目 標	(17人)	(21人)	(20人)	(20人)	
			実 績	17人	20人	20人	19人	
		特別支援教育支援員の配置	目 標	(11人)	(11人)	(20人)	(26人)	
			実 績	11人	12人	22人	26人	
放課後学習支援員の配置	目 標	(—)	(—)	(4人)	(5人)			
	実 績	—	—	4人	5人			
達成状況説明		支援員の配置は、概ね目標を達成することができた。 学習支援員については、応募者が定員に対して少なく、1人の配置不足が生じた。						
成果目標(指標)及び進捗状況		H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (33年度)
		全国学力調査平均正答率の全国との差	目 標	(—)	(全国学力調査等での全国との学力差縮小)	(小学校+0.4 中学校-6.0)	(小学校-1.0 中学校-3.0)	(全国学力調査での全国との学力差縮小)
			実 績		小学校は全国平均を超え、中学校は6.2ポイント開いた	小学校+0.62 中学校-1.82	小学校+3.3 中学校-5.325	
		基礎学力の定着を図り、学習に対する自己肯定感を高め、不登校児童生徒を1割減	目 標	(—)	(サポートした児童生徒のうち学校復帰等の改善年間1~2名)	(—)	(不登校児童生徒1割削減)	(不登校児童生徒の削減)
			実 績		不登校者数 小中計32名 15名の増	不登校者数 小中計17名 15名の減	不登校者数 小中計54名 27名の増	
		進捗状況説明		小学校は、「全国学力調査平均正答率の全国との差」が3.3ポイント上回り、目標を達成することができた。中学校においては、目標を達成することができず、次年度以降も各支援員を配置し、さらなる授業改善をととした学力の向上に努めたい。 「不登校児童生徒の1割削減」については、家庭環境の課題や学校との連携が不十分で、不登校者数が増えてしまい、十分な成果を上げることができなかった。しかし、本事業による支援を受けた復帰者も4名おり、支援員等の配置の効果があったものと思われる。さらに、関係機関とも連携して今後とも取り組みたい。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	特別支援教育や不登校児童生徒への対応に関しては、町雇用の特別支援教育コーディネーターや特別支援教育支援員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと学校職員との連携が重要となる。さらに、子育て支援課に配属の自立支援員との連携も必要である。 学習支援員の配置については、学習の支援が必要な児童生徒の一人一人に対して個に応じた学習支援が行われているが、支援に入る学級の担当教師との連携の充実が必要である。	特別支援教育や不登校児童生徒への対応に関しては、支援対象となる児童生徒数が大きく減少する状況にないため、支援員一人一人の指導力アップが必要となる。さらに、保護者との面談を通して、親子ともに支援をしていく体制づくりも必要である。 学力向上の取組については、平均正答率では目標を達成しているが、学力の定着が不十分(正答率30%未満)な児童生徒への丁寧な指導をさらに充実させる必要がある。
今後の取り組み方針		
学校の管理職及び学級担任と各支援員との連携をさらに深めるために、定期的な連絡会を開催して児童への対応について、具体的なかたちで検討する。 また、支援員一人一人の指導力アップを図る取り組みとして、学年会への参加、町教委主催の支援員研修会、指導主事や臨床心理士の巡回アドバイスを定期的実施する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>66,930</td><td>66,930</td><td>53,544</td><td>13,386</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	66,930	66,930	53,544	13,386	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
66,930	66,930	53,544	13,386	0										
与那原町 66,930千円 報酬 5,262千円 賃金 52,000千円 共済費 7,676千円 委託料 1,992千円 学校カウンセラー1人の報酬 特別支援教育コーディネーター1人の報酬 学習支援員19人の賃金 特別支援教育支援員26人の賃金 学習支援員・特別支援教育支援員 40人の社会保険料 沖縄女子短期大学 1,992千円 放課後学習支援員委託														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、公募により複数者による面接を行っているので妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は「与那原町教育委員会嘱託印設置規程」「与那原町臨時職員に関する規則」により見合った適正な規模となっている。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③ 国際理解人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア		
担当部署名	学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進		
事業内容	国際的感覚や視点を身に付ける人材育成の為に、英語指導の補助員を配置する。 また、スポーツ等を通して、生きた英会話や国際感覚を身につける為に、スポーツイングリッシュスクールを行う。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
		(a) 当初予算額	2,556	6,302	6,487	8,922	9,662
		(b) 予算現額	1,322	6,352	6,489	8,922	9,403
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,234	50	2	0	▲ 259
		(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)		1,322	6,352	6,489	8,922	9,403
	B. 執行済額		1,321	6,352	6,486	7,785	9,400
	うち交付金充当額		1,057	5,081	5,188	6,228	7,520
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (%) (B/A)		99.9%	100.0%	100.0%	87.3%	100.0%
予算の状況の説明		スポーツイングリッシュスクールの委託期間(12月→11月)の変更に伴い、予算減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	英語指導助手の配置	目標	(2人)	(2人)	(2人)	(2人)	
		実績	2人	2人	2人	2人	
	スポーツイングリッシュスクールの実施	目標	(-)	(-)	(21回)	(44回実施)	
		実績	-	-	17回	41回実施	
達成状況説明	英語指導助手(ALT)を2名雇用し、計画通り各学校に配置した。 スポーツイングリッシュスクールを41回実施した。実施できなかった3回は、県外遠征や旧盆と重なり開催できなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(24年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(33年度)
	英語検定取得(1~4級)	目標	(95人)	(135人)	(145人)	(155人)	(185人)
		実績	116人	125人	113人	79人	
	進捗状況説明	英語検定の取得者は、155人の目標に対して79名の実績となった。英語検定の日と部活動の大会が重なったり、飛び級で受験回数を少なくしようとする生徒もいて、受験者163名で、取得者も伸び悩んだ。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	国際的感覚や視点を身に付けた人材の育成を目指し、児童生徒の英語力を高めるために英語指導助手を配置した。小学校においては、英語指導助手の関わりで積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られるようになってきた。中学校では、沖縄県到達度調査の英語の正答率が県平均正答率を6.5ポイント上回ることができた。 英語検定においては、検定試験の開催日と部活動の日程調整が必要で、受験者数が増加していない状況がある。また、検定試験の受験生徒への事前対策も行う等、合格者を増やす方策の検討が必要である。	小学校においては、英語指導助手と学級担任との連携をさらに深め、授業内容の充実を図る必要がある。中学校においては、英語でのコミュニケーション力アップに向けた指導計画の再検討が必要である。 英語検定の取得者アップに向けて、英語検定開催日等を保護者向けにも周知したり、検定試験の受験に向けて事前対策を行う等、丁寧な対応を図る必要がある。
今後の取り組み方針		
国際的感覚や視点を持った人材の育成を行うためには、英語での高いコミュニケーション能力を身に付けさせる必要がある。そのためには、英語指導助手の配置事業を今後も継続して実施し、小学校での英語に対する興味・関心を高める取り組みを充実させるとともに、中学校における基礎力(聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと)の向上に向け課題の分析や指導内容の改善を図るなど、小中学校の連携を含めて計画的に研修会を実施する。 英語検定については、英語検定開催の周知など丁寧にフォローをすることで受験者数をアップさせる。また、4級から順次受験することなく、いきなり3級を受験して不合格になる生徒もいたが、今後はスキルに見合った級の受験を薦め、事前に受験準備の補習などを行いつつ、事前対策を計画的に行うことで合格率の向上を図る必要がある。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,400</td><td>9,400</td><td>7,520</td><td>1,880</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	9,400	9,400	7,520	1,880	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
9,400	9,400	7,520	1,880	0										
与那原町 9,400千円 報酬 5,688千円 〔英語指導助手2人の報酬〕 共済費 861千円 〔英語指導助手2人の社会保険料〕 委託料 2,851千円 リタジャパン(株) 2,851千円 〔スポーツイングリッシュスクール業務委託〕														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、本業務内容を提案しているリタジャパン(株)であるため随意契約した。 ○予算規模は「与那原町教育委員会嘱託印設置規程」により見合った適正な規模となっている。 ○費目・使途については事業目的に必要であり、合致している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3	ほっとハート子育て応援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ)	
担当部課名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成24~33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実	
III-4							
事業内容	0歳児童の待機児童対策を目的に、9人を超えて0歳児童保育を実施するために看護師配置を行う認可保育園への経費の一部を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,250	3,000	3,000	2,100	2,100
		(b)予算現額	1,091	3,000	1,900	2,100	1,800
		(c)増減額(b-a)	▲1,159	0	▲1,100	0	▲300
		(d)繰越額	0	0	0	0	0
		A.計(b+d)	1,091	3,000	1,900	2,100	1,800
	B.執行済額		1,089	1,891	1,800	1,650	1,678
	うち交付金充当額		871	1,512	1,440	1,320	1,342
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.8%	63.0%	95%	79%	93%
予算の状況の説明		4月より看護師配置の認可保育園(3か所)、1か所を10月(6か月間)から看護師配置することを目指していたが、1園からの取り下げ申請があったため、3か所での実施となり300千円減額補正した。また、途中退職等が生じ122千円の予算残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	認可保育園への看護師配置4施設(各1名)	目標	(5か所)	(5か所)	(4か所)	(4ヶ所)	
		実績	4ヶ所	3か所	3ヶ所	3ヶ所	
達成状況説明	当初4か所の認可保育園に看護師を各1名配置する目標であった。 1園から取り下げ申請があったため3か所での実施となった。 4名配置の目標は達しなかったが、看護師配置事業を3ヶ所で行うことで15人の受入れ増員が図られた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	0歳待機児童数 ※各年度10月待機児童数を使用しています。	目標	(24人)	(4人)	(23人)	(27人)	()
		実績		38人	36人	44人	
	【参考指標】 0歳児童の認可園受け入れ数 (24年度については10月現在・25年度以降は年度末)	目標	()	(75人)	(75人)	(75人)	()
		実績		63人	73人	72人	
	進捗状況説明	0歳児を9人を超えて預かる認可保育園へ看護師を配置することで、安心安全な保育環境の確保を行っている。さらには、待機児童解消策としても本事業を推進している。看護師配置を行った3園では、42人の受入が行われ、15人の増員が図られたが、目標を達成できなかった。 達成できなかった要因として、認可外保育園の認可化が進み、入所していた児が住所地を要件等で入所できなくなる事態が生じたことや、育児休暇後の職場復帰(就職)者の人数が想定外数で会った事、保育士等不足などが挙げられる。これらの事から0~2歳児の待機数は増加の一途をたどっており、安心安全な保育環境の確保と待機児童解消を目指すためにも看護師や保育士の確保を継続的に進めていく必要がある。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各保育所で看護師の求人を行ったが、保育所での勤務内容や賃金等の問題から応募が少なく看護師配置(採用)が年度当初からの実施ができない園が1か所、更には途中退職の園が1か所あり、予算に若干の不要額が出ているが、配置を行った園の安心安全な保育環境の確保は行われている。 看護師確保策の一環として、現行の処遇についての検証も必要と思われる。	認可保育園においては、看護師確保に苦慮している実態があることから、ハローワークや看護協会等と連携し看護師確保の支援が必要である。 保育士確保においても、ハローワークや沖縄県保育士・保育所総合支援センター等を利用し、認可保育園と連携を強化する必要がある。
今後の取り組み方針		
0歳児を9人以上受け入れることのできる全ての認可保育園へ看護師を配置することで、安心安全な保育環境を整え待機児童の解消と0歳児受入数の拡大するために、看護協会やハローワークと連携を取りながら認可保育園への看護師配置を支援していく。また、平成27年度より始まった地域型保育(家庭的保育等)を拡大することで、多様な受け皿をつくることで、0歳児の受け入れ態勢を継続的に強化していきたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
与那原町 1,678千円 コスモス保育園 485千円 補助金 保育所負担分 1,519千円 ※補助金含 友愛保育園 593千円 補助金 保育所負担分 2,398千円 ※補助金含 東の森保育園 600千円 補助金 保育所負担分 2,842千円 ※補助金含 〔 看護師雇用に係る経費 〕 〔 看護師雇用に係る経費 〕 〔 看護師雇用に係る経費 〕				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,678	1,678	1,342	336	0
資金の流 点、検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
資金の流 点、検 評価	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定は、補助金交付規則に基づき、町内すべての法人認可保育園へ周知し、事業実施保育園を選定しているので妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模(補助金額)についても保育士給与と看護師給与の差額(月額5万円程度)となっており、適正な予算規模である。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途は、保育園からの支出書類(給与明細)等を確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定されている。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○費目・使途は、保育園からの支出書類(給与明細)等を確認しており、事業目的に即した真に必要なものに限定されている。	

市町村名	与那原町											
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分) 検証シート【公表用】												
事業番号・事業名	4		地球温暖化を防止するための循環型社会形成事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－1－(3)－(ウ)			
担当部課名	生活環境安全課			事業実施(予定)年度		平成26～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所		低炭素都市づくりの推進		
										Ⅲ－10－(1)		
事業内容	異常気象の要因や、生態系への影響が懸念される地球温暖化への対策として策定された「与那原町地球温暖化防止実行計画」を達成する取組みの一つとして、町内全域の防犯灯、街路灯をLED化し、温室効果ガスである二酸化炭素の排出を抑制する。											
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()											
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			26年度		27年度		28年度		29年度		30年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	6,514		70,211		37,000					
		(b) 予算現額	6,514		70,211		25,370					
		(c) 増減額 (b-a)	0		0		▲ 11,630					
		(d) 繰越額	0		0		0					
		A. 計 (b+d)	6,514		70,211		25,370					
	B. 執行済額		5,184		64,836		25,369					
	うち交付金充当額		4,147		51,868		20,295					
	次年度繰越額		0		0		0					
	執行率 (%) (B/A)		79.6%		92.3%		100.0%					
予算の状況の説明		事業申請時に比べ、LED照明器具の見積り単価が安くなったため、工事費11,630千円を補正減額した。										
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況								
				28年度		29年度		30年度		31年度		
	街路灯LED化 163基			目 標	(163)	()	()	()				
				実 績	162							
達成状況説明		交通安全灯LEDの設置については、当初予定では163基であったが、1基が対象外だったため削減し、162基の機器取替を行うことができた。										
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)				
	街路灯のLED化による二酸化炭素排出量抑制			目 標	(ー)	(3,600kg)	(54,699kg)	(ー)	(ー)			
				実 績		3,714kg	68,039kg	ー				
	進捗状況説明		交通安全灯LED化による温室効果ガス排出量を目標値より13,340kg抑制することができた。									

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	地球温暖化を防止することは、国内唯一の亜熱帯気候に暮らす沖縄県だけではなく世界規模で考えなければいけない問題である。 本町では地球温暖化に大きな影響を及ぼす二酸化炭素の排出抑制に取り組む事業として、町内全域の防犯灯・街路灯のLED化工事と環境問題に対する意識啓発のために講演会・地球温暖化事項計画の説明や啓発フラッグの掲揚を実施した。 事業後、LED化により町が明るくなったことで、防犯安全意識と同時に事業内容を説明する機会が増え、地球温暖化防止のための啓発意識の改善につながっている。 町民の環境意識の啓発に対しては、継続的な活動が必要である。	今後、町で開催する学習講座や広報紙等を活用し、環境意識を高めていくとともに、電気の使用量を抑制することで、温暖化防止につながることを積極的に行う必要がある。
今後の取り組み方針		
29年度に町内の街路灯(交通安全灯)の取り換えを実施し、二酸化炭素排出量の抑制を図っていく。また、継続して町民に対し、地球温暖化を防止するための意識啓発活動に取り組んでいく。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25,369</td><td>25,369</td><td>20,295</td><td>5,074</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	25,369	25,369	20,295	5,074	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
25,369	25,369	20,295	5,074	0										
与那原町 25,369千円 工事請負費 25,369千円 有限会社アサト電気 25,369千円 (街路灯LED化工事)														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負事業者は指名競争入札で選定しており、妥当であった。 ○執行率は100%であり適正であった。 ○費目、使途については、事業目的に即し、必要なものに適正に使用している。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那原町									
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	5		避難誘導情報サイン整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-(イ)		
担当部課名	生活環境安全課		事業実施(予定)年度	平成27～28年度			沖縄振興基本方針該当箇所	災害に強い県土づくりと防災体制の強化		
	Ⅲ-10-(2)									
事業内容	来訪者や町民への適正な避難誘導を促し、ひいては「歩いて楽しむ観光」を推進するため、避難誘導情報サインを整備する。									
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()									
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度			
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,972	25,000						
		(b) 予算現額	5,347	25,000						
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 625	0						
		(d) 繰越額	0	0						
		A. 計 (b+d)	5,347	25,000						
	B. 執行済額		5,346	24,120						
	うち交付金充当額		4,276	19,295						
	次年度繰越額		0	0						
	執行率 (%) (B/A)		100.0%	96.5%						
予算の状況の説明		執行率は96.5%と高く、不用額の880千円については入札残である。								
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況						
				28年度	29年度	29年度	30年度			
	避難誘導情報サイン整備・施工			目 標	(整備・施工)	()	()	()		
				実 績	整備・施工					
達成状況説明	観光客や外国人来訪者及び地域住民の円滑な避難誘導を実現するため、避難誘導情報サイン整備工事を完了した。									
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)		
	適正な避難誘導を促す設備整備の達成			目 標	(ー)	(整備完了)	(ー)	(ー)	(ー)	
				実 績		整備完了	ー	ー		
	進捗状況説明	平成27年度に避難誘導情報サイン整備の基本計画及び実施設計を完了し、実施設計に基づき整備を完了した。								

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	津波災害避難支援マップは作成し、公共施設等には案内板を設置しているが、実際の避難の際には、公共施設外にいる不特定多数の人が案内板なしでの避難が困難なため、主要道路からの避難場所への避難経路入口等の表示サインが必要だった。 平成27年度避難誘導情報整備計画及び実施設計を行い、それに基づき、津波避難場所11カ所への避難誘導情報サインを60カ所に設置。サインは緊急避難所誘導サイン、津波浸水想定区域表示サイン及び緊急避難所表示サイン	避難支援マップへの避難誘導情報サインの設置個所の表示が必要 今回整備後に新たな避難場所の設定、新規道路の開通及び避難路の整備が成された場合の避難誘導情報サインの設置場所の再検証が必要
今後の取り組み方針		
・避難支援マップへの避難誘導情報サインの設置個所表示の案内板の増設 ・大型MICE施設整備により想定されるMICE利用の観光旅行者等の不特定多数の人への避難誘導情報サインの周知の検討 ・供用予定の国道329号南風原与那原を含めた避難経路及び誘導策の設定に向けた関係機関との協議 ・新たな避難先及び避難経路の検証		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24,120</td><td>24,120</td><td>19,295</td><td>4,825</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	24,120	24,120	19,295	4,825	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
24,120	24,120	19,295	4,825	0										
与那原町 24,120千円 → 工事請負費 24,120千円 → オパス(株) 24,120千円 (避難誘導サイン整備工事)														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○請負業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○前年度に作成した実施設計に基づき設計額を算出しており予算規模は適正である。 ○完了検査を実施し費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名		与那原町					
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6	与那原町「記憶資源」保存活用事業					
担当部課名	生涯学習振興課	事業実施(予定)年度	平成27～28年度				
		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－1－(5)－ア				
		沖縄振興基本方針該当箇所	文化資源を活用したまちづくり				
		Ⅲ－3－(2)					
事業内容							
網曳資料館において、与那原大綱曳の魅力、与那原町の情報を町内外へ発信するため、展示場の改善、来客数増加計画策定及び活動のため必要な資料・情報の収集並びに調査研究活動を実施する。							
実施方法							
☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
		(b) 予算現額	4,618	6,387			
		(c) 増減額 (b-a)	5,265	6,387			
		(d) 繰越額	647	0			
		A. 計 (b+d)	0	0			
	B. 執行済額		5,059	6,377			
	うち交付金充当額		4,047	5,101			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		96%	99.8%			
	予算の状況の説明		平成28年9月に事業内経費増減の申請をし、事業内経費の流用を行い交付決定額内で事業を終える事ができた。不要額は10千円であった。				
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	展示刷新	目 標	(—)	(展示刷新)	()	()	
		実 績	—	展示刷新			
	体験講座等の開催	目 標	(—)	(体験講座開催)	()	()	
		実 績	—	体験講座開催			
	ホームページでのサービス提供	目 標	(ホームページ開設 アクセス数50件)	(ホームページでの サービス提供)	()	()	
		実 績	ホームページ開設 アクセス数80件	ホームページでの サービス提供			
	聞き取り追加調査	目 標	(聞き取り調査80件)	(聞き取り追加調査 30件)	()	()	
		実 績	聞き取り調査54件	聞き取り追加調査14件			
達成状況説明	展示室のレイアウト、照明、展示物も刷新することができ、10月末にはリニューアルオープンすることができた。小学生への総合学習や大学生に向けての体験講座等も開催することができた。ホームページも常に更新し、情報提供を行っている。聞き取り調査は当初、目標の30件を下回る14件であるが、本人聞き取りができなかった代わりに、以前に聞き取りをしたテープを聞き起こしを43回行い、展示資料に必要な情報を収集した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (26年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	大綱曳まつりに合わせて資料館のリニューアルオープン	目 標	(—)	(—)	(実施)	(—)	(—)
		実 績		—	実施	—	
	年間来館者目標 10,000人	目 標	(2,000人)	(2,000人)	(10,000人)	(—)	(—)
		実 績		1,705人	1,530人	—	
	ホームページアクセス数 年間1,200件	目 標	(—)	(50件)	(1,200件)	(—)	(—)
		実 績		87件	今年度のアクセス数は把握できていない	—	
	進捗状況説明	当初、7月末の「与那原大綱曳まつり」にあわせて資料館のリニューアルオープンを予定していたが、網曳資料館を中心に「与那原大綱曳」の準備をするため、関係機関と調整の結果、まつり終了後の9月から作業を始めることとなった。年間来場者数に関してはリニューアルオープンのため2ヶ月近く資料館を閉館していたとはいえ目標数値との乖離が見られる。ホームページや各種情報発信媒体を活用してリニューアルした資料館の情報発信を行い、目標に掲げた数字に近づくよう努力する。ホームページアクセス数に関しては年度末に本庁のシステム入れ替えがあり、アクセス件数を把握するためのデータ処理ができなかったため、件数を出すことができなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	与那原大綱曳の魅力を発信する当施設の運営内容は形骸化の一途をたどっていたことが本事業の取り組みのきっかけとなった。 平成27年度では綱曳資料館展示改善について調整を重ね、展示物の検討と資料収集、レイアウト、照明等をどのようにするかの大枠を決めた。ホームページに関しては平成27年度内に完成する事ができ、綱曳資料館の情報を県内外に発信する役割を担っている。 綱曳資料館は4階建ての建物で「与那原大綱曳まつり」においては「与那原大綱曳実行委員会」の事務所兼各係の詰め所となっているため、リニューアルオープン日に関しては関係機関と調整を行った結果、事業申請の際に予定していた月より3ヶ月遅れの10月下旬のオープンとなった。オープン後は小学生や大学生が団体で見学、体験授業を行なった実績はあるが、アピール不足・広報不足は否めなく目標の来館者数とは乖離があった。	ホームページや各種情報発信媒体を活用してリニューアルした資料館を町・内外、県外にアピールして来館者数増を目指す。 資料を見て終わるのではなく、実際の体験ができるような、団体向けのプログラムを確立し、小・中・高校、大学生向けに広くアピールする 刷新した綱曳資料館のパンフレットを作成し、町内各所、県内の主な観光地に配布する。
今後の取り組み方針		
「与那原大綱曳まつり」前に綱曳関する、風習や拝みごと、各部門の練習場所や時間などをホームページなどで配信し、町民のみなさんが気軽に大綱曳に参加できるような体制作りを強化する。 「与那原まちあるきガイド」や「与那原軽便駅舎」とも連携を取りながら、お互いの情報共有を図り、イベントの共同開催やパンフレットの配布、ポスター掲示、動画の配信などを積極的に行い、来館者数の増加を図る。 町の商工会が年に数回開催する「綱がるで与那原ちゃんぶる一市」や「与那原綱がるで軽便市」などのイベントへも積極的に参加して、リニューアルした「与那原町立綱曳資料館」のアピールをしていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,377</td><td>6,377</td><td>5,101</td><td>1,276</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,377	6,377	5,101	1,276	0																																
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費																																										
6,377	6,377	5,101	1,276	0																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>与那原町 6,377千円</th><th>報酬費 4,032千円</th><th>嘱託職員(2名) 4,032千円</th><th colspan="2">{ 与那原町嘱託職員設置条例に基づき専門職員配置 }</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>共済費 610千円</td><td>けんぼ連(2名) 610千円</td><td colspan="2">{ 健康保険料・厚生年金保険料額表より算定 }</td></tr> <tr> <td></td><td rowspan="2">需用費 (消耗品・印刷製本) 347千円</td><td>消耗品費 50千円 メイクマンニューマン店 他8件</td><td colspan="2">{ 【購入品目】ステンスカン、ボルトナットキャップ、6角ボルトねじ、木工用ドリル刃、ラッカースプレーなど }</td></tr> <tr> <td></td><td>印刷製本費 297千円 丸正印刷 株式会社</td><td colspan="2">{ 展示パネルの作成費(印刷代) }</td></tr> <tr> <td></td><td rowspan="3">工事請負費 1,130千円</td><td>工事費 810千円 高里エンジニアリング</td><td colspan="2">{ 綱曳資料館内照明灯工事 }</td></tr> <tr> <td></td><td>工事費 160千円 ゆい工房</td><td colspan="2">{ 綱曳資料館ガラス各看板制作工事 }</td></tr> <tr> <td></td><td>工事費 160千円 プランニング・ユウ</td><td colspan="2">{ 案内看板設置工事 }</td></tr> <tr> <td></td><td>原材料費 150千円</td><td>原材料費 150千円 富山装美</td><td colspan="2">{ パーテンションパネル塗装材料代 }</td></tr> <tr> <td></td><td>備品購入 108千円</td><td>備品購入 108千円 高里エンジニアリング</td><td colspan="2">{ テレビ・DVDプレイヤー }</td></tr> </tbody> </table>					与那原町 6,377千円	報酬費 4,032千円	嘱託職員(2名) 4,032千円	{ 与那原町嘱託職員設置条例に基づき専門職員配置 }			共済費 610千円	けんぼ連(2名) 610千円	{ 健康保険料・厚生年金保険料額表より算定 }			需用費 (消耗品・印刷製本) 347千円	消耗品費 50千円 メイクマンニューマン店 他8件	{ 【購入品目】ステンスカン、ボルトナットキャップ、6角ボルトねじ、木工用ドリル刃、ラッカースプレーなど }			印刷製本費 297千円 丸正印刷 株式会社	{ 展示パネルの作成費(印刷代) }			工事請負費 1,130千円	工事費 810千円 高里エンジニアリング	{ 綱曳資料館内照明灯工事 }			工事費 160千円 ゆい工房	{ 綱曳資料館ガラス各看板制作工事 }			工事費 160千円 プランニング・ユウ	{ 案内看板設置工事 }			原材料費 150千円	原材料費 150千円 富山装美	{ パーテンションパネル塗装材料代 }			備品購入 108千円	備品購入 108千円 高里エンジニアリング	{ テレビ・DVDプレイヤー }	
与那原町 6,377千円	報酬費 4,032千円	嘱託職員(2名) 4,032千円	{ 与那原町嘱託職員設置条例に基づき専門職員配置 }																																											
	共済費 610千円	けんぼ連(2名) 610千円	{ 健康保険料・厚生年金保険料額表より算定 }																																											
	需用費 (消耗品・印刷製本) 347千円	消耗品費 50千円 メイクマンニューマン店 他8件	{ 【購入品目】ステンスカン、ボルトナットキャップ、6角ボルトねじ、木工用ドリル刃、ラッカースプレーなど }																																											
		印刷製本費 297千円 丸正印刷 株式会社	{ 展示パネルの作成費(印刷代) }																																											
	工事請負費 1,130千円	工事費 810千円 高里エンジニアリング	{ 綱曳資料館内照明灯工事 }																																											
		工事費 160千円 ゆい工房	{ 綱曳資料館ガラス各看板制作工事 }																																											
		工事費 160千円 プランニング・ユウ	{ 案内看板設置工事 }																																											
	原材料費 150千円	原材料費 150千円 富山装美	{ パーテンションパネル塗装材料代 }																																											
	備品購入 108千円	備品購入 108千円 高里エンジニアリング	{ テレビ・DVDプレイヤー }																																											
資金の 使途の 流れ 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明																																											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負、備品購入に関しては金額が少額だったため、3社見積もりを取り、業者を決定し発注・工事をしており選定方法としては妥当だと考える。																																											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○年度途中で申請し、予算の組替えを行った為不用額も10千円と少なく予算規模は適正だったと考える																																											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。																																											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。																																												

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	与那原町海外友好親善大使人材育成事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-ア	
担当部課名	総務課	事業実施 (予定)年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	国際ネットワークの形成と 多様な交流の推進	
事業内容	文化交流を推進するため、与那原町出身の海外移住者子弟を本町で研修生として受け入れ、日本語研修及び文化研修等を通して、本町及び本県と移住先国とのネットワークを強化し、PR大使として友好親善並びに沖縄文化の振興・発展に貢献しうる人材を育成する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	3,977	3,009			
		(b) 予算現額	2,817	2,011			
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,160	▲ 998			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	2,817	2,011			
	B. 執行済額		2,542	1,623			
	うち交付金充当額		2,033	1,298			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		90.2%	80.7%			
予算の状況の説明		当初、研修生専属の臨時職員を6か月間雇用予定だったが、応募者辞退及び応募がない状況となったため、予算998千円減額した。不用額389千円については、研修講師への報償費が研修回数によって決定するため当初見込額より減となったこと、委託料も同様に当初見込額より大幅に減となったことなどによるものである。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	海外移住者子弟研修生受入:2人	目 標	(2人)	(2人)	()	()	
		実 績	2人	2人			
	児童生徒・町民との交流会:2回	目 標	(2回)	(2回)	()	()	
		実 績	4回	6回			
	帰国後の研修報告会:1回	目 標	(1回)	(1回)	()	()	
		実 績	0回	1回			
	与那原町における交流会でのアンケート実施	目 標	(-)	(アンケート実施)	()	()	
		実 績	-	アンケート実施			
帰国後の研修報告会でのアンケート実施	目 標	(-)	(アンケート実施)	()	()		
	実 績	-	アンケート実施				
達成状況説明	海外移住者子弟研修生受入については、アルゼンチンとボリビアから1名ずつの研修生を受け入れた。 児童生徒・町民との交流会については、町内小中学校3校を訪問し、異文化交流を図ることができた。町青年会や町職員など地域との交流も積極的に行き、研修生の日本語向上、地域住民の移民に対する知識向上及び国際交流への関心を深めることができた。 帰国後の研修報告会については、在アルゼンチン与那原町人会で研修生が写真や自ら作った作品を使って研修報告会を行った。町人会では、研修生を通して故郷与那原町の現状と発展を知ることができ、今後の町人会活動や沖縄文化の継承・発展への新たな一歩となる報告会となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	与那原町での交流会でのアンケート 国際交流に関心がある人の割合:70%	目 標	(-)	(70%)	(70%)	()	(-)
		実 績		85%	97%		
	帰国後の研修報告会でのアンケート 沖縄・与那原に関心がある人の割合:70%	目 標	(-)	(70%)	(70%)	()	(-)
		実 績		-	100%		
	PR大使としての活動	目 標	(-)	(PR大使活動)	(PR大使活動)	()	(-)
		実 績		沖縄料理の普及活動 相模大会への出場等	日本語の普及活動 伝統芸能等の普及活動		
	進捗状況説明	町内小中学校での交流会を通してアンケートを実施した。384名からの回答を集計した結果、目標である70%を上回る97%の児童生徒から「国際交流に関心がある」との回答を得られた。 帰国後の研修生によるアンケート実施については、町人会員20名中20名が「沖縄に興味がある」と答え、与那原の発展やうちなーぐちが今でも勉強できることに驚いたとの回答も得ることができた。 PR大使としての活動では、研修で得た知識や経験を活かし、日本語を現地の子どもたちに教えたり、運動会などの行事でエイサーを踊り三線を弾くなど、文化の継承に努めている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	戦前戦後海外へ移民したウチナーンチュは、終戦直後の沖縄に対し物資援助等を行い、支えてきた歴史がある。彼らの故郷への想いは強く、沖縄とのつながりが途絶えぬよう若い世代に継承し、移民先国と本県の振興と発展に寄与する人材の育成を行うため海外移住者子弟研修生2名を、アルゼンチンとボリビアより3か月間受け入れた。 研修生は、日本語研修を始め三線や空手、書道、陶芸、ウチナーグチなどの文化研修を行い、町内及び県内の文化施設等の見学、町内小中学校訪問等により地域住民との交流を深めることができた。それに伴い、地域では国際交流に対する関心が高まり、同時に移民への理解度も高めることができた。 研修生は研修課題に真摯に取り組み、日本語や伝統文化の知識・技能向上に努めたが、この経験を今後母国にてどのように活かしていくのか、互いのネットワークを強化し、両国の振興と発展にどのように関わっていくのかなど、活動状況等の確認を定期的に行える体制づくりが課題となる。 受入先について、滞在先の高齢化や町内にすでに親戚が住んでいないなどのケースが多くなってきているため、研修目的に沿った研修生の滞在のあり方等検討する必要がある。	研修プログラムについては、できるだけ研修生の要望を事前に把握し、研修生のレベルや目的に沿ったプログラムが組めるよう引き続き努める。また、親善大使としての意識向上を図り、交流の架け橋として活躍できる体制づくりを行っていく。 地域行事等へは積極的に参加し、地域住民との交流をより多くもつ機会を増やし、地域の伝統文化及び移民の歴史に対する関心を互いに深めていけるようにする。 研修生の帰国後も引き続きネットワークの強化を図るため、各国町人会や県人会へ協力を仰ぎ、研修生を積極的に活用し、沖縄文化の継承と発展に貢献する人材育成を共に続けていくよう努める。移住先国では3世・4世の世代となっているため、研修成果及び研修生の経験を活かし、若者の故郷への興味・関心を高めていく必要がある。 研修生受入先については今後の大きな課題であり、生活面や研修生の目的意識を重視した受入体制の検討・整備を行う。
今後の取り組み方針		
研修生に関しては29年度も南米各国から2名受け入れ予定である。 与那原町民との交流については、町内小中学校の訪問、その他事業所や地域行事への積極的な参加による国際交流を図る。地域住民の移民の歴史への関心・知識を高め、地域と共に沖縄及び与那原町の振興・発展に対する意識向上を図っていく。 研修生の帰国後は研修報告会を開催し、母国でも沖縄及び与那原町への関心度を高め、両国の振興・発展に寄与する人材として活動を行えるよう体制の強化を図る。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)															
与那原町 1,623千円	報償費 296千円 旅費 20千円 需用費 52千円 役務費 45千円 委託費 556千円 使用料 43千円 補助金 611千円	団体(1件) 10千円 個人(6名) 286千円 個人(1名) (有)アトム印刷 (株)ビバビーダメ ディカルライフ 24千円 あすなろ福祉会 8千円 ソフトバンク与那原 13千円 (有)沖縄インターオーシャ ンサービス 556千円 (株)シムス 33千円 個人(1名) 10千円 個人(2名) 611千円	舞台出演謝礼 研修講師謝礼 研修講師交通費 印刷製本費 報告書作成 医療・生命保険料 郵便切手代 携帯電話チャージ代 研修生渡航事務委託 WiFiルーター賃借料 研修生報告会着物賃借料 研修生滞在補助金	<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr><tr><td>2,008</td><td>1,623</td><td>1,298</td><td>325</td><td>385</td></tr></table>		総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	2,008	1,623	1,298	325	385
				総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費							
				2,008	1,623	1,298	325	385							
				消耗品費・食糧費(交付対象外経費) 312千円											
				公用車駐車場代(交付対象外経費) 1千円											
				自己負担額(交付対象外経費) 72千円											
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業については、レート価格の変動及び社会情勢等により渡航費を算出することが困難であるため、南米渡航コーディネートを専門とする3業者に見積もりを依頼し、随意契約を行った。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模は適正である。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		○受益者である研修生の個人負担分は、与那原町地域振興推進事業交付金交付要綱に基づいており、妥当である。											
○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費目、使途については、精算段階で検査を実施し、目的に即し必要なものと判断した。												

市町村名		与那原町						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名		8 与那原町ウォーターフロント整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章－3－(2)－ウ		
担当部課名		まちづくり課		事業実施(予定)年度 平成25～28年度		観光客の受入体制の整備		
				沖縄振興基本方針該当箇所		Ⅲ－1－(1)		
事業内容		中城湾港マリンタウンプロジェクトにより造成された東浜地区と既成市街地との間の東浜水路を新たな観光資源として活用するため、東浜水路沿いに修景施設等及び憩いの広場を整備する。						
実施方法		■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)				25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度
		予算の状況	(a)当初予算額	96,500	31,622	255,290	－	11,000
			(b)予算現額	15,000	30,903	255,290	－	11,000
			(c)増減額(b-a)	▲ 81,500	▲ 719	0	－	0
			(d)前年度繰越額	0	－	0	111,335	0
			A. 計(b+d)	15,000	30,903	255,290	111,335	11,000
		B. 執行済額		14,843	30,903	143,954	110,418	10,885
		うち交付金充当額		11,874	24,723	115,163	88,334	8,708
		次年度繰越額		0	－	111,335	－	－
		執行率(%) (B/A)		99.0%	100.0%	56.4%	99.2%	99.0%
予算の状況の説明		予定どおり予算を執行することができた。また、不用額については、入札残によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況		H28活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度	
		(東浜水路憩い広場整備事業) ・カヌー倉庫建築工事	目 標	(・工事実施)	()	()	()	
			実 績	・工事実施				
		(東浜水路憩い広場整備事業) ・技術支援業務(カヌー倉庫建築)	目 標	(・委託実施)	()	()	()	
			実 績	・委託実施				
達成状況説明	附帯工事を実施した。また、工事監理委託業務を実施した。							
成果目標(指標)及び進捗状況		H27成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
		東浜水路の観光活用に向けた基盤整備率100%	目 標	(ー)	(100%)	(ー)	(ー)	(ー)
			実 績		100%	ー	ー	ー
		進捗状況説明	公園名が「御殿山親水公園」に正式に決まり、平成29年3月30日に開園することができた。今後は、水路を活かしたイベントなどが開催できないか検討していきたい。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	工事の発注時や日常管理についても、現場と密に調整しながら、段取りよく進めることができた。予定していた公園の開園式も間に合い、留意点などは特になかった。	今後も、適切な工事監理と早期発注に心掛けるようにする。
今後の取り組み方針		
今後は、公園内でカヌーを使ったイベントなどが開催できないか、所管課と連携をしながら取り組んで行く。また、施設内の清掃や日常点検などの維持管理については、与那原区と年間維持管理契約を締結し運営して行く。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10,885</td><td>10,885</td><td>8,708</td><td>2,177</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	10,885	10,885	8,708	2,177	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
10,885	10,885	8,708	2,177	0										
与那原町 10,885千円 委託費 899千円 工事費 9,986千円 (株)丸島建設コンサルタント 898千円 (株)丸清組 9,986千円 工事監督支援 (株)丸島建設コンサルタント 附帯工事 (株)丸清組														

資金の 使途の 流れ、 点検 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は指名競争型入札により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模についても複数業者に見積もりを依頼し定めたものであり、適正な規模となっている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限られているか。	

市町村名	与那原町						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	公立幼稚園保育環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-(イ)	
担当部署名	子育て支援課	事業実施(予定)年度	平成27～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 Ⅲ-4	
事業内容	公立幼稚園保育時間の延長による給食の提供にあたり安心安全に給食時間を過ごせるよう、配膳支援員を配置する。また、日照時間の長い沖縄での保育においては、「紫外線対策」は重要なことから、町立幼稚園等の園庭へ紫外線対策の「サンシェード」を設置する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,497	18,150			
		(b) 予算現額	4,497	18,150			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	4,497	18,150			
	B. 執行済額		4,208	17,886			
	うち交付金充当額		3,366	14,308			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		94%	99%			
予算の状況の説明		日よけネット取り付け工事費について、入札等による不用額が3,162千円となっている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
				28年度	29年度	30年度	31年度
	給食配膳支援員配置	目 標	(4名配置)	()	()	()	
		実 績	4名配置				
	幼稚園、園庭へサンシェードの設置	目 標	(2箇所)	()	()	()	
		実 績	2箇所				
達成状況説明	【給食配膳支援員配置】 与那原幼稚園・与那原東幼稚園へ給食提供日の全日に各園2名の支援員配置を行い配膳支援を行った。 配膳の効率と、安全管理の推進が図られ達成している。 【与那原町立幼稚園日よけネット設置工事】 町立幼稚園2園各1基設置を計画、実施工事完了。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	給食開始に伴う支援員による給食時の安心安全の確保	目 標	(ー)	(安心安全の確保)	(ー)	(ー)	(ー)
		実 績		安心安全の確保	ー	ー	
	サンシェード整備完了	目 標	(ー)	(2箇所)	(ー)	(ー)	(ー)
		実 績		2箇所	ー	ー	
	進捗状況説明	【給食配膳支援員配置】 与那原幼稚園・与那原東幼稚園へ給食提供日に各園2名を配置をし、配膳の効率と、園児の安全管理の推進が図られ達成している。 【与那原町立幼稚園日よけネット設置工事】 町立幼稚園2園各1基設置を計画、実施工事完了。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	【給食配膳支援員配置】 給食配食日の全日に支援員の配置ができるよう、事前調整に取り組んだ。 安全管理を推進できるよう、確認作業を励行した。 【日よけネット設置工事】 全体的に取り掛かりが遅く、年度末完了に至っていたために、使用状況の把握、検証が年度内で行えなかった。 子どもの健康管理上「紫外線対策」は重要な課題であることから、日よけネットの設置は今後効果を発揮するものと思われる。	【給食配膳支援員配置】 短時間の作業であっても、安全管理に対する意識高揚と効率化に努める。 【日よけネット設置工事】 工期自体が比較的短期なことから、次年度は早目の取組を心がけ実地検証の期間を長く設ける事で改善策につなげる。
今後の取り組み方針		
快適な環境整備の中で保育時間の延長と給食提供を開始するために給食開始し、給食が安全に提供できるよう配膳支援員の配置を行っているが、継続しての事業実施と、課題、改善点を検証し安全面、効率の促進をはかる。 継続事業として、子どもの健康管理上「紫外線対策」は重要な課題であることから、町立保育所施設へ紫外線対策を計画し実施し、町内公立幼・保施設への日よけネット完全完備を目指す。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17,886</td><td>17,886</td><td>14,308</td><td>3,578</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	17,886	17,886	14,308	3,578	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
17,886	17,886	14,308	3,578	0										
<pre> graph LR A[与那原町 17,886千円] --> B[賃金 593千円] A --> C[委託料 2,300千円] A --> D[工事請負費 14,993千円] C --> E["(株)泉設計 1,728千円"] C --> F["(株)泉設計 572千円"] D --> G["(株)共立実業 14,993千円"] B --- B1["与那原幼稚園・与那原東幼稚園 配膳支援員4名配置"] E --- E1["与那原幼稚園・与那原東幼稚園 日よけネット設置工事設計業務"] F --- F1["与那原幼稚園・与那原東幼稚園 日よけネット設置工事管理業務"] G --- G1["与那原幼稚園・与那原東幼稚園 日よけネット設置工事"] </pre>														
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事業業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模も三者見積を取って設定しており適切な規模となっている。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○臨時雇用に関しては、賃金台帳、出勤表等により勤怠管理を適切に行っている。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	与那原町										
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	10		災害対策備蓄整備事業				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-(イ)			
								災害に強い県土づくりと 防災体制の強化			
担当部課名	生活環境安全課			事業実施 (予定)年度	平成28～32年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-10-(2)		
事業内容	沖縄県は他県から海を隔てた遠隔の地に位置し、他県からの本格的な応援等の到着に時間を要すことから、避難施設における長期間の生活を余儀なくされる可能性が高い。被災者の長期避難生活を想定した非常用食料品等の整備を計画的に実施し、災害に強いまちづくりの実現を図る。										
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)	予算の 状況			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度			
			(a) 当初予算額	3,678							
			(b) 予算現額	3,678							
			(c) 増減額 (b-a)	0							
			(d) 繰越額	—							
			A. 計 (b+d)	3,678							
			B. 執行済額	3,591							
			うち交付金充当額	2,872							
			次年度繰越額	0							
			執行率 (%) (B/A)	97.6%							
予算の状況の説明		執行率は97.6%となっており不用額の87千円については入札残である。									
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況							
					28年度	29年度	30年度	31年度			
	非常用食料	目 標	(1680食)	()	()	()					
		実 績	1680食								
	粉ミルク	目 標	(20缶)	()	()	()					
		実 績	20缶								
	保存水	目 標	(1032本)	()	()	()					
		実 績	1032本								
	圧縮フリース毛布等	目 標	(320組)	()	()	()					
		実 績	320組								
	防災レディースセット	目 標	(680セット)	()	()	()					
		実 績	674セット								
	ミルク発熱セット	目 標	(133セット)	()	()	()					
実 績		133セット									
達成状況説明	非常用食料、粉ミルク、保存水、圧縮フリース毛布については目標個数を達成。 防災レディースセットは、最新の男女人口比率で算出した結果、目標の680セットから674セットに変更を行った。 又、ミルク発熱セット133個は当初の活動目標には無かったが、災害時に電気が使えない事を想定し追加購入を行った。										
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値 (27年度)	28年度	29年度	30年度	目標値 (32年度)			
	H32年度目標量(8,400食)の1/5の達成	目 標	(未整備)	(備蓄食料 1680食)	()	()	(整備完了)				
		実 績		備蓄食料 1680食							
	帰宅困難者(320人)の簡易寝具の整備	目 標	(未整備)	(簡易寝具 320組)	()	()	(整備完了)				
		実 績		簡易寝具 320組							
	進捗状況説明	平成32年度を目標に備蓄食料(8,400食)や帰宅困難者用の簡易寝具等の整備を進めている。平成28年度で予定をしていた非常用食料、粉ミルク、保存水、圧縮フリース毛布、防災レディースセット、ミルク発熱セットの整備を行った。									

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	【事業推進後の課題】 備蓄食料(5年後)の処分計画(有効活用) 【今後懸念される問題点等】 マリンタウン地区への大型MICE施設整備により、想定される来訪者の増加及び避難場所の確保	【事業推進後の課題】 与那原町災害対策備蓄食料処分計画の作成 【今後懸念される問題点等】 大型MICE施設整備により想定される来訪者や人口増加の検証及び避難場所の検討
今後の取り組み方針		
今後の取組としては、大型マイス施設建設に伴う来訪者や人口増加の把握を十分に行い新たな避難場所の検討、それに伴う備蓄食料の備蓄量及び保管場所の検証を行い処分計画も含めたうえで計画的に備蓄品を購入していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>3,591</td><td>3,591</td><td>2,872</td><td>719</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	3,591	3,591	2,872	719	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
3,591	3,591	2,872	719	0										
与那原町 3,591千円 → 物品購入費 3,591千円 → アースウイング(株) 3,591千円 〔 備蓄品及び食料の購入 〕														
資金 使途の 流れ、 検 査 目 ・ 費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○受注業者は指名競争入札により選定しており妥当である。 ○複数業者見積を参照として設計額を算出しており、予算規模は適正である。 ○納品検査を実施し費目・使途は事業目的に即し真に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												